

令和6年12月2日（月）、令和6年度加賀看護学校誓詞式が同校で行われました。



以下に、式辞、感謝のこたばを全文掲載します。

### 学校長式辞

本日、誓詞式を迎えられる、35名の皆さん、おめでとうございます。看護学校での全課程の折り返し地点ですね。

皆さんには入学試験の時に、どのような看護師になりたいか問いかけました。「母親が看護師であったのであこがれました」とか「小さな時に入院し、その時の看護師さんがやさしかったので自分もなりたい」と、それぞれに思いを語ってくれました。テレビや映画の中の看護師のイメージや、保護者から見聞きした看護職の情報だけで、漠然とした答えしか返ってこなかった様に思います。

それから1年半が過ぎ、多くの勉強をし、ぼんやりと自分の将来が見えてきたのではないのでしょうか。看護師になるには覚えるべきことが多くて驚いたことでしょう。たくさん理不尽な試験を振り切り、よく頑張りました。基礎的ではありますが看護実習も体験され、患者さんに接することも経験されました。その上での先ほどの誓いの言葉だと思いますので、その言葉を大事に持ち続けていただきたいものです。今日、保護者の方々と皆さんの誓いの言葉を共有しました。私にとっても、とてもうれしい瞬間でした。

さて、これから皆さんは本格的に看護実習に臨むわけですが、より深く患者さんと向き合うことになります。看護師にとって医療知識や技術は当たり前です。それよりも、人ときちんと向き合えることが、最も重要なことだと思います。患者さんは一番の教師です。しかし、教員のように教えてくれるわけではありません。みなさんの学ぼうとする姿勢がなければ、何も得るものはありません。看護実習を受け入れてもらえるのは患者さんのご好意によるものです。この貴重な体験をどうか無駄にしないでください。経験というのは、時間や回数ではなく、いかに真剣に取り組むかで磨かれるものだと思います。

残りの1年半は、最も重要な時期になります。いろいろな誘惑に負けず、邁進して行ってください。再来年の春には、心豊かなすばらしい看護師になっていることを期待してやみません。

本日は本当におめでとうございます。

令和6年12月2日 加賀看護学校 学校長

## 感謝のことば

私たち、三十五名が看護の道を志し、一年半が経ちました。日々指導してくださる先生方、応援してくれる家族、そして困った時には助け、励まし合える仲間たちのおかげでこれまで看護を学び続けることができ、今日の誓詞式を迎えることができました。

私たちは日々、看護の知識、技術を学んでいます。一年次に初めて行った病院での臨地実習では何度も練習した技術が緊張や焦りから上手く出来なかったり、知識が不足していると感じる場面があったり、看護の厳しさや難しさを実感しました。そして同時に患者さん個人に合わせた技術の工夫方法など臨地に出て得られる学びの多さに感銘を受けました。二年次に臨んだ臨地実習では受け持ち患者さんの情報を収集し、自分で立てた看護計画を基に実際に患者さんに援助を実践しました。臥床時間が長く一日のほとんどをベッド上で過ごす患者さんに私は全身清拭をすることで身体の清潔を保ち、新たな褥瘡の発生を予防しようと計画を立てました。しかし、実践してみると身体を動かす時に顔をしかめる様子が見られ、患者さんの苦痛や負担になっていると感じました。その為、援助を行う頻度や方法を再度見直し、計画の修正を行いました。看護を提供する時には患者さんの表情や反応、言動を観察し、患者さんにとって最善の看護を常に追求し続けることの大切さを学びました。これから本格的な臨地実習が始まります。臨地実習では多くの学びを得られるとともに幾度も困難が訪れたり、上手くできずに落ち込んだりすることもあると思います。その時は、一年半ともに歩んできた仲間と励まし、助け合いながら乗り越えていきたいと考えています。そして、私たちが臨地実習に行くことができるのは受け入れてくださる患者さんがいるからです。私たちは患者さんの大切な時間の中で看護させて頂けることに感謝し、「あなたが来てくれて良かった」と言ってもらえるように学習し知識を深め、患者さんの状態に応じた技術練習をし、安全、安楽な看護を提供できるように努めていきたいと思っています。そして疾患の状態やバイタルサイン測定値だけでなく言葉、表情、仕草などから患者さんの思いをしっかりと受け止めて真摯に向き合い、身体面だけでなく心理面、社会面など全体に目を向け個人に応じた看護を提供していきたいと思っています。

本日は私たちのために、このような厳粛な式を行って頂き、有難うございました。私たちは支えて下さる皆様への感謝を忘れず、理想の看護師に近づけるように日々努力を重ねていきます。

令和6年12月2日 加賀看護学校 2年生代表



ナイチンゲール像から採火する生徒 | 加賀市の加賀看護学校で

**加賀看護学校  
35人が誓詞式**  
医療の道決意新たに  
加賀市の加賀看護学校で2日、誓詞式があった。来年2月から市医療センターで始まる臨地実習を前に、2年生35人が看護師になるための決意を述べた。生徒たちは手に持ったろうそくに、ナイチンゲール像から採火し、保護者らを前に「幅広い視点から患者を支える」「正しい技術と知識を持って対応する看護師となる」などと誓いを立てた。  
北井隆平校長は「これからより深く患者と向き合うことになる。(こ)で誓った言葉を大切にしていってほしい」と激励。生徒を代表して瀬口美海さんが「患者と真摯に向き合い、患者一人一人に応じた看護を提供したい」と語った。  
(小川祥)

